

◆人と地球に思いやりを

“ふるさとちば”のための政策推進を◆



西尾けんいち県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

早寝・早起き、地球温暖化防止に貢献

「脱夜ふかし社会」 大人の教育、県民の健康

2月県議会特集

大人や社会の協力訴え

「脱夜ふかし社会」へ行動すべきだ。若さと情熱で、地域からの社会変革や地球環境保全へのメッセージを送り続ける西尾憲一(にしお・けんいち)県議(船橋市選出、3期目)。2008年度の県予算案を審議する2月定例会県議会でも一般質問に立ち、子供たちや郷土の未来を見据えた新たな提言を行いました。「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進を取り上げて2年。一定の成果は出ているものの、地球規模で拡大する社会のグローバル化が24時間社会への流れをつくり、子供たちの健やかな眠りが損なわれています。西尾県議は、「夜ふかし社会」が大人の健康障害、温暖化防止への逆行という視点も加え、対応を県に求めました。一般質問の様々を特集しました。

西尾 私は「脱夜ふかし社会」の健全育成の理由は三つ。一つは子供の教育・青少年の健全育成。二つは大人を含む県民の心身の健康。三つ目は地球温暖化対策のためだ。



西尾 防災対策に積極的に取り組むため、防災局の設置を考えてはどうか。
知事 本県では総務部の消防地震防災課を中心に防災対策に取り組んでいます。同課は、5室64人と防災部局を設置している他県と遜色はありません。今後

超高層住宅の地震対策指摘

西尾 超高層住宅における震災対策をどのように考えているのか。
知事 地震による倒壊の危険性はないと言われますが、エレベーターでの閉じ込め



子供には深夜に携帯電話を使わせない措置を

「脱夜ふかし社会」を県民運動として実施していくことを強く要望する。

2年前の2月議会で早寝・早起き・朝ごはん運動について取り上げた。朝食を摂らない児童生徒は少しだが、減っている。しかし、早寝・早起きは改善されていない。
子供たちの夜ふかしが増えている原因として、深夜の携帯電話の使用が一因とされ、子供には深夜に使わせない措置を取るべき段階に来ていると訴える専門家もいる。
大人の協力も不可欠。にもかかわらず、深夜のコンビニや居酒屋、ファミレスに幼児の姿をみることがある。事情はあっても、子供が健やかに寝る環境を奪っていることは確か。大人にとっても心身の健康に良くないことは明らか。
早寝・早起きが照明や冷暖房等で省エネ、地球温暖化防止にも役立つことは明らか。コンビニの24時間営業が夜ふかし社会を一層助長していることも見逃せない。条例等で規制はできないが、協力を求めることは可能だ。
県としても「脱夜ふかし社会」を県民運動として実施していくことを強く要望する。

県政に関することはお気軽に
西尾けんいち事務所
〒273-0865 TEL.047-422-2065
船橋市夏見4-16-4 FAX.047-422-7171

西尾憲一プロフィール
○略歴○
・昭和25年12月 石川県金沢市生まれ
・昭和48年3月 早稲田大学第一法学部卒業、農業、会社員、代議士秘書
・平成7年4月 船橋市議選初当選
・平成11年4月 県議選初当選
・平成12年6月 衆院4区の自民党公認候補

○現職○
・平成13年3月 県議補選で再選
・平成15年4月 県議選3選
・平成19年4月 県議選4選
・県議会 総合企画水道常任委員会委員
・党県議会 地球環境問題対策議員連盟幹事



千産千消推進でもPR

西尾 白熱灯の蛍光灯化、レジ袋の削減など県民一人ひとりができることを、もつと県民に周知する必要があると思うがどうか。

環境生活部長 「ちばCO₂」CO₂(こつこつ)ダイエット計画」で取り組むことにしています。出前講座やシンポジウムなどで県民に呼びかけ、レジ袋の削減では、検討会議を設置して具体的な推進方法を協議してもらっています。

西尾憲一県議会レポート

さらに来年度は「地球温暖化と生物多様性保全推進きゃらばん隊」を組織し、家庭部門の温室効果ガスの排出量削減に向けた新たな取り組みを予定しています。

西尾 自然発生するメタンの有効利用を研究しては、環境生活部長 メタンの発生場所が一定でないなど様々な課題がありますが、環境研究センターが中心となって発生場所の分布状況を調査しており、引き続き発生状況の把握に努めます。

西尾 県産農産物の販売促進に当たり、「フードマイル」の視点を強調しては、

家庭からの地球温暖化防止

照明は電球型蛍光灯

白熱灯に比べ1万時間使用の場合1個で1万円お得

レジ袋も削減

買い物袋を持参しましょう

地球を救おう



環境にやさしい近くで採れた野菜や魚介を選びましょう

農林水産部長 フードマイルは食料の輸送重量に距離をかけて計算される指標で、食料の輸送距離を短くすることでCO₂を削減し、地球環境に与える影響を軽減する考えです。

県が推進する「千産千消」はこの考え方に合致します。来年度は年間を通じて行う「農林水産物ディスプレイキャンペーン」などで千葉県産はフードマイルレジ袋が少ないことを広報します。

赤ちゃん持つ家庭に外出しやすい環境を



保育所や空き店舗に赤ちゃんオアシスを

西尾 不育症で悩む方を支援し、県民の認識も高める必要があると思うが、健康福祉部長 不育症は妊

娠はしても流産や早産を繰り返し、生まれても育たない場合をいうとされるが、明確な定義も診断基準もなく、国も実態を把握できていません。

健康福祉部長 保護者の精神的安定を保つとともに、子育て家庭の孤立化を防止するために必要だと考えます。現在、市町村とともに保育所や児童館、公共施設の空きスペース、空き店舗を活用し、育児相談や親子交流などを実施する地域子育て支援の拠点づくりを進めています。

西尾 赤ちゃんと赤ちゃんを持つ家庭が気軽に外出しやすいような環境づくりを

これら施設を保護者の外出時における授乳やおむつ交換に活用することを含め、赤ちゃんを持つ家庭が外出しやすい環境づくりに努めてまいります。

デートDV、生徒の告知を

西尾 デートDVの現況はどうか。

総合企画部長 若年層の恋人間の暴力、いわゆるデートDVについて平成17年度に内閣府が実施した調査では20歳代の男性の10・8%、同じく女性の22・8%が交際相手から身体的暴力、心理的攻撃、性的強要のいずれかの被害を受けたことがあると答えています。

一方、県が平成18年度に

高校生等を対象にした「若者のためのDV予防セミナー」で行ったアンケート調査ですと、デートDVについてセミナーを受講して初めて知った生徒が70・1%で、認知度が低いことがわかりました。

西尾 若者層に対する啓発はどうしているか。

総合企画部長 高校等でDVの予防教育としてセミナーを実施。大学生を中心とした実行委員会を立ち上げて「DVを考える若者フォーラム」を県と共催で、さらに県、大学、若者フォーラム実行委の共催で県民を対象にした公開講座も開催しています。

2月県議会一般質問

誠実に県政

西尾けんいち 県議

2月県議会自民党代表質問

財源不足の当初予算を追及

2月定例県議会で最大会派自民党の代表質問に岡村泰明県議(四街道市選出・4期目)が登場しました。

岡村県議は、財政問題、私学助成、医療の充実などを中心に質し、うち、乳幼児医療では、自民党が要望を続けてきた就学前までの通院助成は実現しましたが、なおの充実を求めました。

予算案については「3年連続で多額の財源不足が続く当初予算は異常な事態」として知事を追及し、真の県民本位の予算のために、今後も厳しく監視を続けるとしました。

また、知事の政治姿勢では、空港戦略、道路特定財源をめぐる見解、知事のマネーファストについて質しました。